



庄原っ子の学力を見る!

—「基礎・基本」定着状況調査から—

教育指導課 ☎0824-73-1184

「基礎・基本」定着状況調査は、広島県教育委員会が県内全ての公立小・中学校を対象に平成14年度から毎年実施され、今年度、本市は小学校5年生309人が国語科と算数科、中学校2年生300人が国語科・数学科・英語科の調査に参加しました。

今年度の特徴として、設問の2割程度がより思考力・表現力を必要とする問題になっています。これは、基礎的な知識だけでなく、*テキストを理解しながら「読む力」や、テキストに基づいて自分の考えをまとめて「書く力」が児童・生徒に

改善などを行いながら取り組んでいます。取り組みの成果を、今年度3学期に予定している市内一斉学力調査で再度検証していきます。

▼家庭との連携は

学力向上を考えたとき、生活習慣が、子どもの体力・学力に大きな影響を与えることが分かっています。毎日朝食をとる、適切な運動をする、十分な睡眠時間をとるなどの基本的生活習慣が身に付いている子どもの方が基礎学力の定着度合いも高い結果になっています。基礎・基本定着状況調査の一部として行われた児童生徒の生活に関する調査によれば、児童生徒の93%以上が毎日朝食を食べ、91%以上はふだん決まった時刻に起きており、学校と家庭の生活リズム定着への取り組みが成果としてあらわれています。

また、家庭学習についても、「勉強時間が30分未満」(小学校)「家ではまったく勉強しない」(中学校)が減少してきていますし、家

庭読書についても、「1か月の読書冊数が3冊未満」(小学校)「1か月に1冊も本を読まない」(中学校)の児童生徒が減少しています。

家庭学習の習慣づくりにしても学校・家庭の連携が大切であり、今後も継続した取り組みが必要です。

▼今後に向けて

各小・中学校では、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るために、様々な取り組みを実践しています。これらを一層充実させるためには客観的なデータおよび取り組みの成果や課題を分析し、授業研究などに生かし、授業の質を高めることが重要となります。各校で分析した内容を校内で共有し、指導内容や指導方法の改善に積極的に活用し取り組みを進めていきます。

とって大切と、改めて考えられるようになってきたからです。

こうした思考力・表現力を必要とする問題の中で、小・中学校の国語科「書くこと」で庄原市の通過率(*正答者数を調査対象者数で割った百分率)は、県の通過率を上回り、本市が取り組んでいる「ことばの教育」の成果の一つと考え

は小学校で学習する漢字の定着に課題があること、小学校算数科では()を用いた式の計算や、数量の関係を()を用いて式に表わす問題に課題があるなど、さらに基本的な学習を充実させる必要があります。調査結果を基に各学校が自校の課題を明確にし、今後、指導内容や指導方法の改善を図ります。
*テキスト：文章、図、表、グラフなどを示す

■各教科の通過率

	教科全体	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
庄原市	66.1	82.2	52.1	64.2	67.0
広島県	64.2	78.5	40.6	67.0	65.2

	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
庄原市	76.1	80.7	70.9	74.6	76.3
広島県	75.6	80.9	70.6	69.8	77.2

	教科全体	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
庄原市	76.0	66.5	90.4	67.6	78.2
広島県	74.4	63.3	81.0	66.2	80.1

	教科全体	数と計算	図形	数量関係
庄原市	68.7	73.8	65.1	59.7
広島県	69.0	73.9	66.3	59.0

	教科全体	聞くこと	読むこと	書くこと	実技
庄原市	78.8	88.4	74.8	65.2	85.7
広島県	73.4	85.1	73.1	55.0	75.0

▼調査結果のポイント
今回の調査結果は、昨年度に比べ全体的に通過率が低くなりましたが、出題傾向も変わっており、比較した点数のみにとられず総合的に判断する必要があります。

▼調査結果をどのように生かしますか

各学校や学力向上検討委員会の部会ごとに、調査結果の分析や改善計画などについて交流・協議を行いました。2学期から、各学校のそれぞれの指導の中で「指導改善の実施スケジュール」によって授業

調査結果について聞く



庄原市児童生徒学力向上検討委員会副会長
峰田小学校 校長 渡部 要



粟田小学校の英語活動

交流、職員の実技研修などを推進しています。小学校における英語活動は、コミュニケーション能力(表現力)の育成と共に、児童に、国際社会の一員としての正しい国際感覚を身につけ、広い視野を持つてほしいとの願いから取り組んでいるものです。しかし、その根底にあるものは『正しい日本語』です。場に応じた正しい日本語を使うことのできる能力を育成しながらの英語活動であることを忘れてはなりません。市内各小学校においても、様々な活動の工夫がなされています。粟田小学校でも、『正しい日本語と楽しい英語の飛び交う学校』を合い言葉に、日々の活動を進めています。

「ことばの教育」で書く力がアップ

今回の調査結果で、いずれの教科も「書く力」が県平均を上回りました。これには、「ことばの教育」の取り組みが大きく関わっています。「ことばの教育」は国語科だけでなく、各教科や学校教育の様々な場面を通して行っています。庄原市内では小学校の「英語活動」に積極的に取り組んでおり、子どもたちの学び意欲の向上とコミュニケーション能力の育成にもつながっています。



子どもたちに豊かな表現力と正しい国際感覚を

英語活動推進企画委員会委員長
庄原市立粟田小学校 校長 日雨孫厚子

How are you ?

I'm fine, thank you, and you ?

このような会話が市内全小学校の児童の間でスムーズに交わされるようになってきました。各小学校では英語活動がかなり定着し、それぞれ工夫した取り組みが行われています。これまでのALT(英語指導助手)に頼りがちだった授業から、担任主導で行える授業への切り替えをねらって、市内小学校英語活動推進企画委員会では、授業研究、指導技術の